くみあいNEWS

第１５２３８号
2020年12月29日(火)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

2021年度第18回中央委員会報告

【日時】12月28日（月）8時30分～9時47分
【出欠】出席47人　委任51人　欠席0人
【議長】箕澤氏

Ⅰ.報告事項

1. 上部団体会議報告
・第28回中央執行委員会
・中央労使協議報告
2. 各種会議等報告
・日本製鉄健康保険組合第28回理事会
3. 箇所労使協議報告
・瀬戸内製鉄所の一部社宅閉鎖に伴う当所深井社宅の活用について
・2020年度下期経営委員会
・2021年1月度生産計画について
・2020年度4／四期要人員計画について
・2020年度4／四期合理化案件について
4. 「年末助け合いカンパ」の取組み結果報告
5. 執行部衛生巡視結果報告

Ⅱ.協議事項

1. 基幹労連「新型コロナウイルス感染症対策による影響に関する調査」について

Ⅲ.審議事項

1. 和歌山労組におけるＡＰ21 春季取組みに関する件

Ⅳ.その他

1. 1月度日程について

報告事項5件、異議なく承認
協議事項1件、異議なく承認
審議事項1件、満場一致で可決決定

中央委員会の議事内容（抜粋）を紹介します

「年末助け合いカンパ」の取り組み結果報告

1. 集約結果

支部名	カンパ額(円)	支部名	カンパ額(円)
総務	152,000	冷間製管	122,000
工程技術	158,555	設備管理	80,849
鋼管技術	189,200	中央整備	91,500
コークス	111,021	製銑整備	54,000
製銑原料	56,308	製鋼整備	47,509
製銑	121,536	圧延整備	72,000
製鋼	196,501	海南整備	73,500
ステンレス	74,500	エネルギー	79,957
鋼片	76,000	大形	88,520
薄板	79,000	設備総務	53,500
中径製管	106,500	所幹部	10,000
中径製品	185,800	生活協同組合	17,800
小径製管	127,200	労働組合	21,100
小径製品	134,200	**合計**	**2,580,556**

2. カンパ金使途明細

（1）長期療養者お見舞い
お見舞品　12人分　＝　130，668円
（2）逝去者御遺族お見舞い　2人分
＝　200，756円
（3）日本製鉄労連きずな基金
500円×3，123人(12月1日現在の組合員数)
＝　1，561，500円
基幹労連ふれ愛カンパ（きずな基金500円の中から50円を支出）

（4）釜石支援カンパ　＝　100，000 円
（5）カンパ金使途合計　＝　1，992，924 円

3．残金

（1）カンパ金
2，580，556 円－使途 1，992，924 円
＝　587，632 円
残金の 587，632 円は、福祉積立金に入金する
（2）福祉積立金残高　＝　4，481，159 円

年末助け合いカンパへのご協力ありがとうございました。引き続き組合活動へのご理解とご協力をお願いします。

執行部衛生巡視結果報告

生活総点検活動で組合員からいただいた「安全衛生」「職場環境」に関わる意見に対し、昨年の執行部衛生巡視から改善が進んでいない案件等を中心に再度点検を実施したので下記に報告する。

1．日　　時

2020年10月1日（木）～11月27日（金）

2．点検箇所

各支部より生活総点検活動で出された「安全衛生」「職場環境」に関する箇所

点検の結果、第52期前半年度の回答時に支部より要請するとしていたもの中には、職場労使委員会等での支部の粘り強い要請と、それに会社が応えることにより、この1年で多くの案件が改善されていた。一方、多額の予算を必要とする要望や対応が難しい案件については、未改善のものが多く、今後も継続要望および注視していくことが必要である。

中でも、早期の改善が必要な案件があった場合は、状況に応じて労使話し合いの場で会社に要請するとしていたものの、今回は緊急を要するものがなかったと判断する。但し、安全に直結する構内道路の陥没等について支部から要請があった際は、引き続き執行部が現場確認を行った上で、速やかに対処していくこととする。

本取組みに際し意見・要望を提出いただいた組合員の皆様と、ご対応をいただいた各支部役員の皆様に感謝を申し上げます。

基幹労連「新型コロナウイルス感染症対策による影響に関する調査」について

基幹労連は、ニューノーマルと言われる新たな日常に向けての対応や中長期的な政策（中期ビジョン）の策定に必要な基礎データを得るために、組合員ならびに組織を対象として「新型コロナウイルス感染症対策の影響に関する調査」を実施することとしている。

和歌山労組としても、本取組みの趣旨を踏まえ下記要領にて取組んでいくことから、アンケート調査へのご協力をお願いする。

1．対 象 者

テレワーク（在宅勤務等）で勤務している、または 1 回でも勤務した組合員

2．依頼支部と要請枚数

支　　部	要請枚数
総務	10 枚
工程技術	10 枚
鋼管技術	9 枚

3．調査方法

無記名のアンケート方式

和歌山労組における ＡＰ２１春季取組みに関する件

1.期　間

2020 年 12 月 28 日（月）～2021 年 1 月 14 日（木）

日本製鉄労連としてのＡＰ21 春季取組みへの対応について（一部要旨）

●ＡＰ21 春季取組みの動向について

ＡＰ21 春季取組みについて基幹労連は、ＡＰ21 春季取組み基本構想（案）において、「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」を好循環させていくという基本理念に基づいた取組みとするとしている。その上で、新型コロナウイルス感染拡大影響により取巻く環境が厳しい状況にあるが、組合員の生活を維持・向上させるためには、賃金改善の流れを止めることなく継

続させていくことが必要であり、2年サイクルにおける「個別改善年度」として「年間一時金」と「格差改善」を主要な取組みとし、継続的な「人への投資」に向けた取組みを推進するとしている。賃金改善に取組む組合については、ＡＰ20春季取組み方針(案)に基づくものの現下の状況に鑑み、要求額は3,000円を基本とし、部門・部会でまとまりを持って取組むとしている。

金属労協(ＪＣＭ)は、2021 年闘争は厳しい環境下にあるが、生活の安心・安定を確保し持続的な成長を実現していくため、「人への投資」として賃上げの流れを止めることのないよう 3,000円以上の賃上げに取組むことを基本にするとしている。また、連合は. 定期昇給相当分(2%)の確保を大前提に、産業の「底支え」「格差是正」に寄与する「賃金水準追求」の取組みを強化しつつ、それぞれの産業における最大限の「賃上げ」に取組むことで、2%程度の賃上げを実現し、感染症対策と経済の自律的成長の両立をめざすとしている。

●日本製鉄労連のＡＰ21
春季取組みへの対応について

日本経済は、米中貿易摩擦に端を発して世界経済が低迷していたことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により急激かつ大幅に減速し、コロナ禍の終息が見通せない中で、当面は厳しい状況が続くと想定せざるを得ない。日本製鉄においても、一部の鋼材需要は回復基調にあるものの、未だその水準は低く、収益についても2年連続して大幅な赤字を見通しせざるを得ないなど、極めて厳しい経営状況下にある。

連合会としては、ＡＰ20 の取組み経過や取巻く環境、第8回生活総点検活動において、連合会として取組むべき企業内労働条件事項は提起されなかったことなどを総合的に勘案するならば、「個別改善年度」となるＡＰ21 春季取組みにおいて、緊急を要する改善項目はないものと考える。

一方、病院支部を有する一部単組は、一時金を中心に要求の検討を進めており、連合会として、病院部会等を通じ医療界の動向に関する情報共有はもとより単組・病院支部との連携を図っていく。加えて、職場環境の改善などの箇所独自要求に取組む単組に対しては、連合会として必要に応じて支援を行うこととする。

関係協力会社ならびにグループ会社各組合においては、基幹労連など上部団体の春季取組み方針を踏まえ、賃金改善や一時金、格差改善を中心に具体的な要求内容を検討している状況にある。連合会としては、日本製鉄グループ労働組合総連合会と連携を図りながら、基幹労連が基本構想(案)に掲げる格差改善に向けて、積極的に支援を行うこととする。具体的には、中核組織としての役割と責任を果たすべく、グループ総連合会や連合会各単組とも連携を図り、それぞれの要請に基づく情報提供などの交渉支援や経営申入れ行動を中心にその役割を最大限に果たしていく。

なお、2021 年年間一時金については、2020 年一時金に傾斜配分した財源の取扱いを含め、2020年度の会社業績を踏まえて改めて会社と協議することとしており、連合会としては組合員の生活を第一義とした対応を図っていく。

2年サイクル運動のもと、車の両輪として企業内労働条件の改善とあわせ、身近な生活諸課題、産業政策・政策制度諸課題の改善・解決に取組むことは、組合員の雇用と生活の安心と安定のために不可欠である。連合会として、去る 11 月 25 日開催の第 27 回中央執行委員会で確認した「産業政策・政策制度諸課題への取組み」について、単組と一体となって推進していく。

●今後の進め方

各単組は、本内容について機関会議や職場討議等において職場動向の把握を行うこととし、その結果を 2021 年 1 月 21 日開催予定の第 29 回中央執行委員会において集約する。

連合会としては、その集約結果を踏まえ、「ＡＰ21 春季取組みに臨む日本製鉄労連の基本スタンス(案)」を提起することとする。

第１８回中央委員会　組合長挨拶



ご安全に。令和 2 年最後の中央委員会、大変お疲れ様でした。

早いもので今年も残り 4 日となりましたので、一年を振り返りながら来年の課題を申し上げ、年末のご挨拶に代えたいと思います。

まずは、昨年から始まった令和時代に期待することの 1 位は「平和、安心・安全」、2 位は「経済・社会の安定・成長」との調査結果があり、特に激動の昭和時代を経験されたシニア層からのご意見が多いとの事です。

その 2 年目、期待とは裏腹に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、日本経済へのダメージは皆様ご承知の通りであり、鉄鋼メーカーの顧客先では自動車産業の回復基調や公共土木では影響が少ないものの、造船、産業機械、電機などは対前年で大きく後退しました。

こうした中、日本製鉄はようやく底を脱したようで、全社での出銑・出鋼量が上向き、今年度下期の挽回は次年度へ一縷の望みを託すことになりそうです。しかしながら、和歌山地区では第 1 高炉のバンキングが継続されており、主力であるシームレス鋼管の需要回復にはもう少し時間がかかるものと認識しております。現場の皆様には臨時休業、代休、時間外の抑制などにご協力頂き、賃金水準の低下による生活への影響がある中でも、安全確保のうえ持ち場立場で頑張って頂いていることに対し、労働組合の長として心から感謝を申し上げます。

和歌山労組の活動においても、コロナの影響により中央委員会の開催スタイル変更や各支部主導による職場討議・説明会の開催、本部・支部行事の自粛など、我慢を強いられた訳でありますが、本年終盤では年末助け合いカンパへの多大なるご協力や労金・こくみん共済 coop の取組みに対する結果など、支部役員を中心にご尽力を頂きました。まさに組合員お一人おひとりのご協力の賜物であり、重ねてお礼を申し上げる次第であります。

さて、来年の和歌山労組においては、第 52 期の総仕上げとして「生活総点検活動」の総括や福利厚生に関わる調査など、まずは職場に直結した課題を優先的に進めて参ります。

また、経営対策では、生産設備構造対策における職場での動向、4 月から始まる定年延長制度ならびに新人事処遇制度への点検など、各支部との連携により執行部にて対応を進めていく所存です。

加えて、和歌山労組推薦議員への支援、連合和歌山・大阪に対する加盟組合としての役割発揮など、日本製鉄労連や基幹労連と連携を図りながら社会的責任を果たして参りますが、このことについても、支部役員のご理解なくして成し得ないことを申し添えておきますので、ご協力下さいます様お願い致します。

いずれにしましても、職場の「安全と健康」の確保はウィズコロナの時代になっても不変であります。この年末年始を無災害で乗り切り、2021 年が組合員の皆様にとりまして、ご家族含め幸多き年となりますよう心からご祈念を申し上げ、年末のご挨拶に代えさせて頂きます。一年間ありがとうございました。

ご安全に。

今回の組合ニュースが 2020 年最終号となります。この一年間ご愛読いただきありがとうございました。2021 年につきましても、皆様にご愛読いただけるよう、工夫を凝らして参りますので、本年同様によろしくお願い致します。